

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000732		
法人名	株式会社プラティア		
事業所名	グルーホームプラティアひょうたん山		
所在地	地域密着認知症対応型共同生活介護		
自己評価作成日	令和3年9月10日	評価結果市町村受理日	令和3年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和3年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

次の5点をスローガンとして、入居者の支援にあたります。(1)入居者が主人公…日常生活はご本人の意向を大切に、私たちは不自由な所を補うサポート役です。(2)尊厳を保つ…プライバシーを最大限に確保し、どのような状態になられても尊敬する人生の先輩として節度ある対応に努めます。(3)いきいきとした生活…日々の生活の中で役割を持つ事により、一人ひとりの可能性を引き出し、生き生きとした生活を送っていただきます。(4)認知症の進行の防止…趣味や外出、家事などをその人ができる範囲で行なうことにより、認知症の進行を防止します。(5)地域社会と共に…地域に開かれた施設として、地域の皆様に支えられながら共に歩みます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

窓から川沿いの桜並木が見える共用空間は、採光がよく明るく、清潔感・開放感がある。コロナ禍のため外出が困難な状況であるが、近隣への個別の散歩は継続し、庭での歩行訓練や楽しいプログラムを工夫した体操を日課とし、自立支援による生活リハビリを意識付け、機能の維持向上ができるよう取り組んでいる。食事の準備や片づけ・洗濯たみ・居室の掃除等の家事参加、脳トレ・塗り絵・カラオケ・プランターの水やり等、日常生活の中で楽しみや役割を持てるよう支援に努めている。バイキングやケータリング等を活用した行事食の工夫、おやつレクリエーション等、食の楽しみが継続できるようにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>詰所に基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけ、出勤時も確認している。また全体会議でも唱和している。</p>	<p>法人共通の「運営理念」「5つのスローガン」を共有し、スローガンの中に、「地域社会と共に」という地域密着型サービスの意義を明示している。入職時研修で説明し、「運営理念」を各フロアのスタッフルームに掲示し、全体会議開催時には唱和し職員の共有を図っている。管理者が日々の支援の中で職員に意識付けに努め、理念の実践につなげられるよう取り組んでいる。</p>	<p>職員が理念をもとに支援やケアを振り返る機会を設ける等、実践に向け具体的に取り組む仕組み作りが望まれます。</p>
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>新池島町自治会の行事に参加させていただいている。(春祭り、夏祭り、秋祭りなど)</p>	<p>通常は地域への外出、地域行事への参加、事業所行事への参加案内等により、地域交流に取り組んでいるが、現在は休止している。自治会に加入し、また、近隣の散歩を日課とし、自治会長や近隣住民を通して地域とのつながりを継続している。地域包括支援センターや自治会と連携し、地域での困難事例の解決に向けて取り組む等、地域での役割も担っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>詰所に基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけている。また全体会議でも唱和している。</p>		

グループホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の中にグループホームがあるということとを念頭において、地域の方、家族様と積極的に意見交換を行っています。	利用者・家族・地域代表(自治会長)・地域包括支援センター職員・知見者(地域のクリニック事務長)を、運営推進会議の構成メンバーとしている。通常は2ヶ月に1回開催し、毎回多数の家族の参加があり、会議では資料を配布し、利用者・職員の状況、事業所の行事・活動・研修・事故等について報告し、意見・情報交換を行っている。令和2年3月以降は会議開催を休止し、会議資料を構成メンバーに配布している。資料に、「意見・質問があれば問い合わせてください」との文言を添えている。議事録を玄関に設置して公開している。	構成メンバーから意見・質問があった場合は、次回の会議資料でフィードバックし共有することが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が主催する勉強会、連絡会には積極的に参加している。	運営推進会議(現在は書面会議)を通して、地域包括支援センターと連携を図っている。生活保護受給者の受け入れや支援について、福祉事務所を訪問し協働している。コロナ対策・ワクチン接種・感染予防物品支給等に関して、市から主にメールで情報提供があり、事業所での感染予防対策に活かしている。通常は、東大阪市地域密着型サービス事業者協議連絡会の会議や研修に参加している。	

グルーホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	詰所に基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけている。またスタッフ会議でも唱和している。	法人共通の「身体拘束廃止適正化に関する理念及び方針」を整備し、身体拘束を行わないケアを実践している。「身体拘束検討委員会」を3ヶ月に1回実施し、身体拘束事例がないことの確認と、適正化に向けた検討を行っている。議事録を各フロアで回覧し周知を図っている。年間計画をもとに事業所内研修を、今年度は資料研修の形で行い、「身体拘束について」の研修は毎年2回実施している。「プラティア禁止事項」をスタッフルームに掲示し、スピーチロック(言葉による行動制限)について注意喚起している。玄関の開錠は操作が必要であるが、階段・エレベーターの使用は自由で、1階・2階を自由に行き来できる。また、外出の意向があれば、ベランダ・庭・玄関前等、戸外に出て気分転換が図れるように配慮している。	回覧による委員会の議事録の共有、配布による資料研修の実施が明確になる工夫が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を定期的に行い委員会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市などが主催する勉強会には参加し、制度の把握に努めている。現在、成年後見制度を利用されている方が2名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明時間を取り、重要事項説明書、利用契約書で理解した上で入所していただいている。		

グルーホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より利用者様の行動、発言・様子からニーズの把握に努めている。家族様には面会時や電話やおお手紙、機関紙「プラティア通信」で定期的に報告している	利用者の意見・要望は、日々の会話の中から把握に努め、タブレットで共有している。家族の意見・要望は、通常は面会時や運営推進会議時に聴いているが、現在は主に電話連絡時に聴いている。利用者担当職員が2か月に1度「近頃のご様子」を書面で報告し、ブログで生活の様子を伝え、意見・要望が出しやすいように工夫している。管理者が窓口となり、タブレットで情報共有し支援につなげるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月に各ユニット毎の会議、またグループホーム合同の会議を開催し意見や要望を聞き入れたり、日々の業務の機会でも意見を聞き反映している。	全体会議と各フロア会議を毎月開催し、各種委員(ケア適正・環境・教育・栄養管理・IT広告・業務適正化)を設けて業務分担を行い、職員の意見・提案を利用者のケアや支援・業務・運営等に反映する仕組みがある。現在は会議の開催が不定期になっているため、職員の意見・提案は管理者が集約し、内容に応じて対応している。管理者が年に3回個人面談を行い、また、日々の業務の中でも随時、職員の意見を個別に聴く機会を設けている。職員の意見は、内容に応じて、エリア長を通して法人に伝える仕組みもある。	管理者は今後の定期的な全体会議・フロア会議の再開を予定されているので、実施を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の仕事に常に目を向け、指導や相談にのり評価される人事考課表を実施し、モチベーションの向上に努めている。		

グルーホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の職員研修、階層別の研修を計画的に実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会を通じて他の事業者との交流し、研修会にも参加したり、交流会に出向いたり活動している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接から本人、家族様から相談内容や不安をお聞きして解決に努めて、スムーズな入所を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時に情報聞き取りに加え、書面での情報収集も家族にお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と十分な面接を行い、適切なサービスについて助言してアドバイスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは行っていただくということを第一に考え、出来ないことを援助させていただくことで、共同での生活の作業を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、定期的に電話することにより入居者の方の状態をお伝えすることをさせていただき、家族様にも協力いただいています。		

グルーホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所の情報収集もしっかりし、入居者・家族側からのご要望にあわせ外出援助を行っています。去年からは、個別ケアに重点をおき、馴染みのあるところへ職員と1対1で行き、支援しています。	近隣からの入居が多いため、通常は、家族や友人等の来訪が多く、散歩・買い物・喫茶等で馴染みの場所へ出かける機会もある。「寄り添い介護」を活用し、思い出のある馴染みの場所に出かけられるよう個別の外出支援も行っている。現在は通常の面会や外出は休止しているが、時期に応じて玄関スペースで面会したり、近隣の散歩は継続し、可能な範囲で馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が、孤立されている場合は、職員が間に入りコミュニケーションをとることを心がけ、相入居者様本位のケアを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られても、年賀状などを送らせて頂いたり相手側からも送って来られたりホームに来られ相談等様子をお伺したりと関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の会話の中や行動・日々の様子等からニーズを導き、希望に添えるように努めている。	利用者個々の思いや暮らし方の希望について、入居時の面談で把握した情報があれば「利用者情報表」の備考欄に記録することとしている。日々のコミュニケーションの中で把握した内容は、タブレットで共有し、支援や介護計画等に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、表情や反応から汲み取ったり、家族の意見を参考にし把握に努めている。	

グルーホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の会話の中や行動・日々の様子等からニーズを導き、希望に添えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が入居者様との会話や生活スタイルを観察した中から、個々に合わせたケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時やお便り、電話で本人のニーズ、家族様の思いを聞きのぞみを取り入れ反映している。	「利用者情報表」「アセスメント表」をもとに、初回の介護計画を作成している。サービスの実施状況は、タブレットの介護日誌やチェック表に記録している。フロア会議で、利用者の状況の共有、課題検討している。定期的には6カ月毎に介護計画の見直しを行い、見直しの際は「モニタリング表」でモニタリングを実施し、「アセスメント表」でADLを確認し、サービス担当者会議で次の介護計画に反映する仕組みがある。主治医など関係者の意見があれば、モニタリング表に記載することとしている。	介護計画に基づいたサービス実践の記録の工夫、また、PDCAサイクルにもとづいた介護計画の見直しのプロセスが明確になるファイルの整理が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様状態等介護日誌を記録し、心身の状態の変化や気付きの点を申し送り欄に記入や口頭でも伝え職員間で情報の共有をしやすいようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活歴、フェースシート家族等から参考や管理者からアドバイスし、個人個人にあった生活を提供させていただけるよう取り組んでいます。		

グルーホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自己決定を尊重し、スーパーへの買い物、近隣の昔から行きつけの店への息抜きや思い出の場所など、地域の資源を利用させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関はあるが、希望があれば入居前の主治医の継続は可能である。週1～2回の割合で往診を受け、緊急時は24時間対応できる体制を確保している。	契約時に確認し、利用者・家族の希望に沿った受診を支援している。協力医療機関による内科・歯科の定期的な往診、また、訪問看護・鍼灸の訪問が受けられる体制がある。希望があれば入居前の主治医の継続も可能である。他科の通院の際には、主治医から紹介を受け、事業所から職員が同行して情報提供している。往診については「健康管理日誌」に記録し、通院についてはタブレットに記録し、医師・看護師・職員の連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自己決定を尊重し、スーパーへの買い物、近隣の昔から行きつけの店への息抜きや思い出の場所など、地域の資源を利用させていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は週1回の割合で面会を行い、医療機関より情報を提供いただきフロアで共有している。退院直前には予め職員会議で協議し円滑に進むように対応している。		

グルーホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、家族様、看護師、医者との連携をとり、情報の共有化を徹底に努めている。	重度化・終末期に向けた事業所の方針を、「医療対応指針(重度化対策・終末期ケア対応指針)」「看取りに関する指針」に沿って契約時に説明し、同意を得ている。近年、終末期対応の事例はない。事例があれば、重度化を迎えた段階で主治医から説明し、事業所からも再度説明を行い、家族の意向を確認している。看取りの希望があれば、看取りの介護計画を作成し、家族の意向に沿って支援している。事業所内研修で、「ターミナルケア」研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急時の対応マニュアルを作成して管理者から指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施と自治会に協力体制お願いしている	年に2回消防訓練を実施し、通常は消防署の立ち合いもある。今年度は、8月に昼間想定で、可能な利用者は参加して自営訓練を実施し、年度内に夜間想定訓練を予定している。消防訓練計画書・消防訓練実施要項・訓練記録を作成し、業務日誌に添付して、参加できなかった職員に周知を図っている。自治会長・隣接店舗を通して、地域との協力体制が築けるよう努めている。法人が支給する備蓄品を、事業所内で保管している。	

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応に関し、管理者が見本となり、職員にもその都度指導したり、認知症、接遇について内部研修でも取り上げて実践に努めている。	事業所内研修(今年度は資料研修)で、「接遇マナー」「個人情報保護」「認知症ケア」研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。「運営方針」「5つのスローガン」「プラティア禁止事項」にも、利用者尊重や言葉遣い等についての姿勢を明示し、意識向上に努めている。個人記録類はスタッフルームの鍵のかかる書庫に保管し、掲示やブログでの写真の使用については契約時の「確認表」で意向を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の行動・言葉に常に気を配り理解しやすいように説明を行った上で、意思や希望が出やすいように職員が声掛けや環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活スタイルに合わせて、日々工夫して援助に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着は自己にて決定して頂きその日の雰囲気やその人にあったオシャレの援助をさせていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のカットや盛り付け、片付けを職員と一緒にしている。火曜日の夕食は自由作成日として入居者様のご要望に応じて職員と共同で買い物に行き、ホームで食事作りをしている。	朝食は各フロアで調理し、昼食・夕食は、委託業者から届く食事を温めて提供している。炊飯と汁物の調理は各フロアで行い、汁物の下準備・盛り付け・片付けに利用者が参加できるように支援している。利用者個々の状態に応じた食事形態には、各フロアで対応している。季節感や利用者の希望を採り入れて、バイキング・ケータリング等で「行事食」を企画し、また、おやつレクリエーションの機会も設け、「食」が楽しめる機会作りに努めている。	

グルーホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	傷病には留意して、食事の量、栄養面、水分摂取量を個々に考え援助させていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、見守りや介助し口腔内の清潔保持に取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中・夜間通してトイレでの排泄を心がけて生活に近いレベルで対応を行い、ADLが低下しないようにも生活リハビリにも努めている。	ほぼ自立からベッド上での介助まで、排泄の自立度に個人差が大きい状況である。「排泄チェック表」で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、自立支援を基本に、2人介助も取り入れ、日中はトイレでの排泄に向けた支援に取り組んでいる。介助方法や排泄用品について検討事項があれば、管理者が職員から意見を聴いて集約し、現状に適した支援につなげている。誘導時や報告時の言葉遣いや、トイレ・居室のドア・カーテンの開閉等、プライバシーへの配慮の周知に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の食事で食物繊維、水分摂取、乳製品等の食物で自然な形で排泄を促す取り組み看護師共に連携している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間、曜日は設定せず、入居者様の声を第一聞き、その人の生活スタイルに応じる形を取っている。	入浴できる環境を毎日整え、曜日や時間を固定せず、利用者の体調や希望に応じて、週2回以上入浴できるように支援している。利用者毎に湯を入れ替え、自身のペースでゆっくり入浴できるように時間調整している。ADLに応じて、シャワー浴と足浴で対応する場合もある。同性介助の希望があれば同性で対応し、入浴拒否には声かけやタイミングを工夫し、入浴機会の確保に努めている。入浴剤や、好みのシャンプーやリンスを選べるように準備する等、入浴を楽しめるように配慮している。	

グルーホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人にあった生活スタイルに合わせて入居者様基準で、起床・臥床を提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の内容の把握はもちろん、変更に関しても介護日誌・口頭でも申し送り職員全体が把握できるように服薬手帳にも記入している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣向をベースにした生活スタイルを提供している。当ホームでは喫煙、飲酒も認め利用者本位に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望、残存機能にあわせ、外出を積極的に رفتり、家族様にも協力頂いたりその都度希望に応じて対応している。	通常は、買い物・喫茶・受診等のための外出、地域の祭り等の地域行事への参加、花見等の季節の外出を行っている。また、「寄り添い介護」を活用して、個別の外出支援も行っている。現在は外出は休止しているが、近隣への個別の散歩、玄関前のベンチでの外気浴、庭での歩行練習は継続し、気分転換や機能の維持を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は、自己管理にて嗜好品を買いに行かれています。自己管理が出来ない方は、事務所で小口現金を預かり、希望にそって職員付き添い買い物に出かけて本氏の意味決定をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に合わせて、かけて頂き、本人でも携帯電話を持っておられる方もおられます。		

グルーホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔に保ち、ベランダに花や植木を置き、リビングには四季感じる写真・貼り絵等を展示している。	各フロアの共有空間は、ゆったりとした広さがあり、採光がよく、清潔感がある。温湿度管理・換気・消毒など、環境整備を行っている。思い思いの場所で過ごせるよう、テーブル席・ソファセット・一人の掛けの椅子等が配置されている。利用者と一緒に制作した季節の作品や行事等の写真を飾り、季節感を取り入れている。キッチンからの音や匂い、家事参加への支援等で、生活感が感じられるように支援している。フロア間の行き来は自由にでき、玄関ホールのソファ、玄関前のベンチ、ベランダを活用する等、気分転換が図れるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも長椅子を設置し、気の合う方同士や一人でも過ごせるスペースを確保したり、四季応じて模様替えをしたりと工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた愛着ある家具類、テレビ、仏壇等を入居時に持ち込んで頂き、心地の良い住環境を提供している。	各居室に洗面台・クローゼット等が設置されている。ベット・たんす・テレビ・仏壇・写真等、使い慣れた家具や好みのものが持ち込まれ、レクリエーションで制作した自身の作品も飾り、居心地良く過ごせる環境づくりが行われている。居室担当者が中心になり、家族と相談しながら、衣替えや物品の整備を行っている。居室の前に写真や名前を掲示し、部屋間違いがないように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手すりを設置し、バリアフリー移動しやすい環境を整えている		